



3年目の山田錦

恒例の穂肥前研修会を開催

山田錦の出穂は早ければ8月25日前後か?



8月5日に、新潟県山田錦協議会主催の研修会を、エコ・ライス新潟の倉庫で行いました。研修には、山口県から旭酒造株式会社取締役製造技術顧問の小林様にご参加いただきました。小林様からは昨年ニューヨークで開催した「獺祭の会」のプロモーションビデオを上映しながら同社の近況報告をいただきました。



○品質向上の為、網目変更
 すでに、協議会では網目変更を生産者の皆様にお願ひしていますが、山田錦選別の網目を2.0mmから2.05mmへの規格変更。又、規格外の網目を1.85mmから1.9mmへ規格変更について、同社の考えを説明。
 生産者からは、「山田錦を始める際、2.0mmと言った。今後網目が変わることはないのか」「生産者の手取りが減るのではないか」等の質問がありました。
 酒米の等級格差は1等と2等では差があることで、選別を強化することで2等が1等になれば、




所得は増える。又、規格外の網目に関しても、品質劣化した規格外で蔵元の足を引っ張っては最終的に生産者にも影響が跳ね返ってくるので、生産者と蔵元で一致協力して良い酒を造ることを目指すことを協議会役員の意見として伝えました。

○穂肥・収穫に向けて
 技術指導では、各地の生産者の山田錦を根ごと持ってきてもらい、淡路先生から指導を受けました。
 昨年度は、全体的に胴割れが発生していませんでしたが、2名の方が胴割れ率5%を超えていました。整粒は70%を超えていた。

調整で失敗をしていましたので、最後の乾燥調整で失敗をしていました。早目の適期刈り、テンパリングで急激な乾燥を避けてください。
 3%以上の胴割れは、1等であっても高度精米をするとボロボロに砕けてしまいます。米の品質を左右するので十分に気を付けてください。


○県外研修報告
 中野鉄弥さんからは、7月の「とちぎ獺祭米の会」「大和川ファーム」「福島県農業研究センター」の取り組みについて報告。とちぎ獺祭米の会の山田錦の田んぼは見事で、畔に芝を植えて非常によく管理されていたこと。
 福島県は県を挙げて酒の取り組みをしており、2年連続で日本一を獲得していたり、山田錦の詳しい栽培試験の実相を見学し、大いに刺激を受けました。
 協議会として年に一度は先進地の視察研究の必要性を語りました。

メール送信時のお願い



メールを弊社に送信する際、**件名に必ず名前を記入してください。**迷惑メールが増えており、削除してしまう可能性があります。

○副会長に山崎哲矢さん(三条市)



研修会にも参加されていた協議会の副会長の澤田清一さんが、体調不良のため役職を辞退された旨を役員会に申し出られていました。
 役員会では辞退を了承し、副会長には三条市の山崎哲矢さんが就任されることになりました。

山崎哲矢さん